

和牛種雄牛産肉能力直接検定成績（2017年度）

末澤遼平 本田祥嵩* 渡慶次功 荷川取秀樹

I 緒 言

沖縄県畜産研究センターでは、種雄牛候補牛の産肉能力評価のため、和牛種雄牛産肉能力検定（直接検定法）を実施している。2016年から2017年までに検定を終了した種雄牛候補牛の成績について取りまとめたので報告する。

II 検定牛および検定方法

1. 検定牛

肉用牛群改良基地育成事業により生産された雄子牛から、産子調査により9頭を選抜した。その概要を表1に示した。検定牛の父と母方祖父の組み合わせは、田尻系×糸桜系が2頭（No.4, 8）、田尻系×気高系が2頭（No.3, 6）、茂金系×田尻系が1頭（No.7）、気高系×気高系が2頭（No.1, 9）、糸桜系×気高系が2頭（No.2, 5）であった。

表1 検定牛の概要

No. 名 号	生年月日	血 統				生産地
		父	母	母方祖父	母方曾祖父	
1 一賀	2015/12/27	勝忠平	もんた	第2平茂勝	紋次郎	糸満市
2 福山8の2	2016/3/22	光北福	まりこ	百合茂	福栄	宮古島市
3 百合照	2016/4/12	美津照重	たかえ1	百合茂	金幸	今帰仁村
4 光福春	2016/5/6	美津照重	なおこ	北福波	福栄	多良間村
5 福忠	2016/5/17	福福波	かつくに	勝忠平	北国7の8	糸満市
6 照百合	2016/8/5	美津照重	ゆりえ	百合茂	勝忠平	宜野湾市
7 好3	2016/9/23	好平茂	ふくひさ	安福久	平茂勝	今帰仁村
8 照福波	2016/10/5	美津照重	たかふくなみ	北福波	平茂勝	石垣市
9 豊百合勝	2016/11/3	百合茂	とよかつ	勝忠平	豊安福	石垣市

2. 検定方法

全国和牛登録協会の和牛種雄牛産肉能力検定（直接検定法）¹⁾に基づき実施した。直接検定法とは、種雄牛候補となる6~8カ月齢の雄子牛を単房式牛房にて112日間飼養し、粗飼料として乾草を飽食給与、濃厚飼料は朝夕の2回給与で、1日の給与量は適正な育成管理となる範囲でおおむね体重比1.0~1.3%を目安としている。

調査は増体量、発育、飼料摂取量、余剰飼料摂取量²⁾、体型について実施した。

余剰飼料摂取量とは、同じ代謝体重、同じ増体量のもとで、摂取する飼料の量を減らすことを目的として作出された形質である。無駄な摂取量を数値化したものであるため、負の値であれば必要な摂取量よりも摂取量が少なく効率がよいという評価、正の値であれば、必要な摂取量よりも摂取量が多く効率が悪いという評価となる。

*現八重山農林水産振興センター農業改良普及課

Ⅲ 検 定 成 績

検定成績は、表2に体重および1日当たり増体量（DG）、表3に飼料摂取量、余剰飼料摂取量および体型評点を示した。

各調査項目の平均値は、開始時日齢242日、開始時体重273.4kg、終了時体重414.8kg、180日補正体重212.0kg、365日補正体重427.6kg、DG1.26kgであった。DGについては福忠が1.47kgと優れ、365日補正体重については好3が477.0kgと優れていた。

9頭の平均値を2016年度の全国平均値³⁾と比較するとDGは0.14kg大きい。

これらの検定牛のうち、2017年度第3回沖縄県肉用牛改良協議会専門委員会において、2018年度現場後代検定実施牛として、光福春（美華宗春へ改名）、照百合（照百合守へ改名）、豊百合勝を選抜した。

表2 検定成績(体重およびDG)

No. 名 号	開始時 日 齢	体 重 (kg)				DG (kg) 体高 (cm)		
		開始時	終了時	180日補正	365日補正	終了時	終了時	選抜
1 一賀	240	292.0	445.0	226.5	462.8	1.37	126.8	
2 福山8の2	252	243.0	376.0	182.1	377.2	1.19	125.0	
3 百合照	231	219.0	358.0	185.5	385.3	1.24	126.0	
4 光福春	249	279.0	420.0	210.0	425.0	1.26	130.0	○
5 福忠	238	250.0	415.0	196.4	437.1	1.47	123.6	
6 照百合	249	224.0	424.0	217.2	427.6	1.21	129.2	○
7 好3	250	323.0	473.0	241.0	477.0	1.34	130.8	
8 照福波	238	258.0	374.0	202.4	389.6	1.04	123.8	
9 豊百合勝	238	308.0	448.0	247.3	466.8	1.25	128.2	○
平均値	242	273.4	414.8	212.0	427.6	1.26	127.0	
標準偏差	7.8	33.4	38.6	23.1	37.2	0.12	2.7	
全国平均値	—	—	—	—	—	1.12	124.9	

注1) 全国平均値は2015年度（187頭）の平均値

2) ○は2018年度和牛種雄牛現場後代検定牛として選抜

表3 検定成績(飼料摂取量, 余剰飼料摂取量および体型評点)

No. 名号	粗飼料 摂取率(%)	飼料摂取量(kg)		余剰飼料摂取量(kg)				体型	
		TDN	CP	濃厚飼料	粗飼料	TDN	CP	評点	選抜
1 一賀	64	670	104	-9	150	61	-2	83.7	
2 福山8の2	53	579	101	22	15	40	6	83.3	
3 百合照	48	527	95	15	-62	3	2	82.7	
4 光福春	49	576	98	-4	-71	-7	-4	83.5	○
5 福忠	56	568	91	-50	158	-21	-12	81.7	
6 照百合	61	614	109	-22	79	29	7	83.1	○
7 好3	50	620	116	1	-57	-14	6	82.5	
8 照福波	56	547	99	-8	24	15	5	82.8	
9 豊百合勝	68	636	94	-80	126	28	-12	84.1	○
平均値	56	593	101	-15	16	15	-0.4	83.0	
標準偏差	7.0	45.5	7.9	32.1	85.5	27.1	7.6	0.7	
全国平均値	—	—	—	-28.3	9.1	1.3	-5.7	—	

注1) 全国平均値は2015年度(187頭)の平均値

2) ○は2018年度和牛種雄牛現場後代検定牛として選抜

3) 余剰飼料摂取量の算出方法は、以下のとおりである。

余剰飼料摂取量 = 摂取量 - {a × 代謝体重 + b × 増体量 + c × 他方の摂取量 + C}

代謝体重 = { (開始時体重 + 終了時体重) / 2 }^{0.75} 増体量 = 終了時体重 - 開始時体重

他方の摂取量 = 濃厚飼料の余剰飼料摂取量を求める場合は、粗飼料の摂取量を回帰として取り込み、粗飼料の余剰飼料摂取量を求める場合は、濃厚飼料の摂取量を回帰として取り込む。

a: 各飼料における代謝体重の係数 b: 各飼料における増体量の係数

c: 他方の摂取量の係数 C: 定数

IV 引用文献

- 1) 公益社団法人全国和牛登録協会(2013)和牛登録事務必携, 61-69
- 2) 公益社団法人全国和牛登録協会(2016)和牛種雄牛産肉能力検定成績 直接法, 5-6
- 3) 公益社団法人全国和牛登録協会(2016)和牛種雄牛産肉能力検定成績 直接法, 4

検定補助: 赤嶺圭作, 比嘉正樹, 花城義則